



世界農業遺産『清流長良川の鮎』

長良川における持続可能な 漁業生産システムについて

「日本一の鮎」を育む清流
の将来を見据えて

「清流の国ぎふ」SDGs推進セミナー(2022.2.17)

郡上漁業協同組合
白滝 治郎



森を育てる活動
森林の育成と水資源管理



川を守る活動
優れた景観と生態系の保全



森が蓄える長良川の清流
都市部を流れる川でありながら
日本三大清流と呼ばれる

長良川システム

人の生活、水環境、漁業資源が
連環する里川のシステム

森・川・海のつながりで育つ鮎
生物多様性と鮎資源の確保



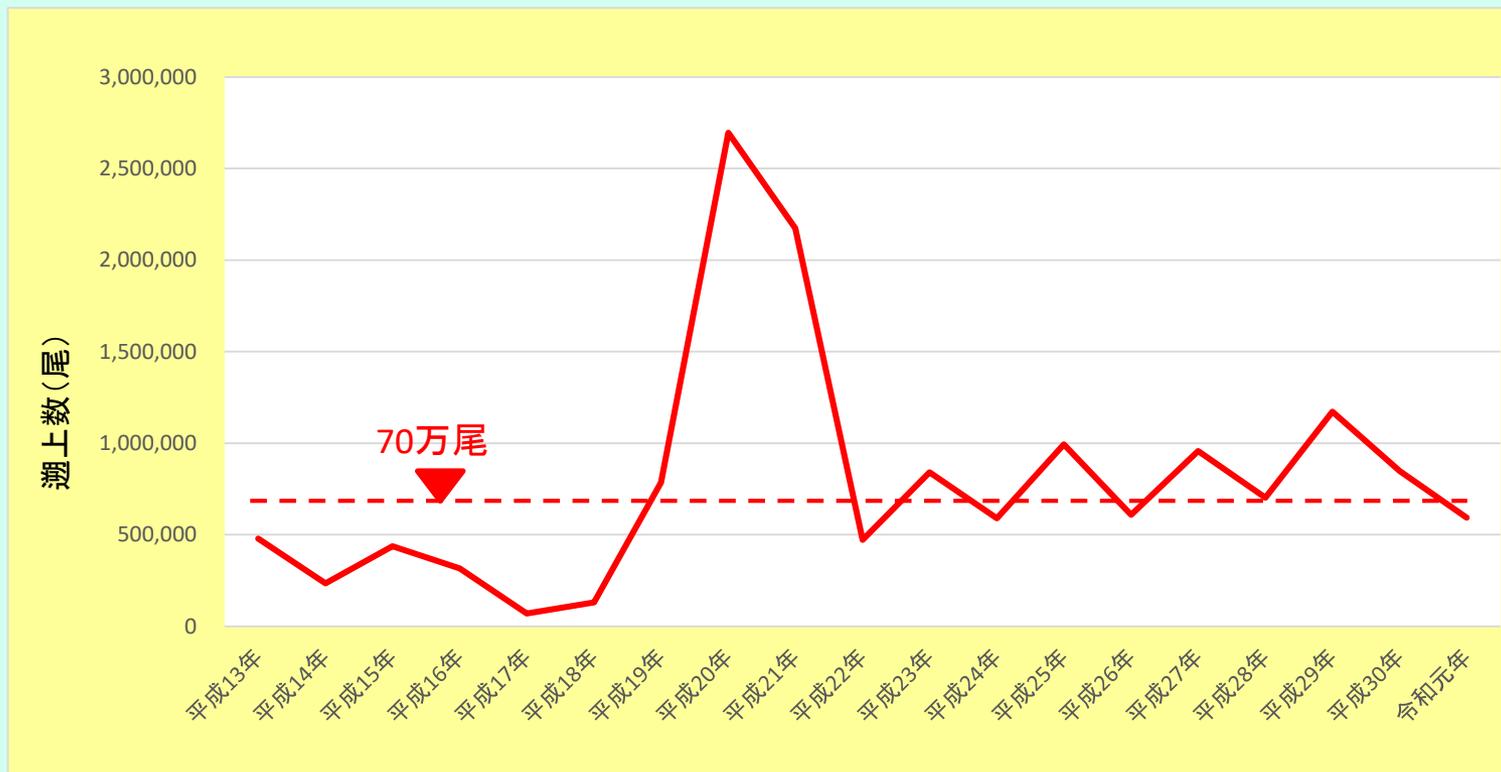
日本有数の鮎
伝統漁法による食料の確保



鮎と水の文化
流域に伝わる文化と価値観

天然遡上アユと漁協収支の関係①

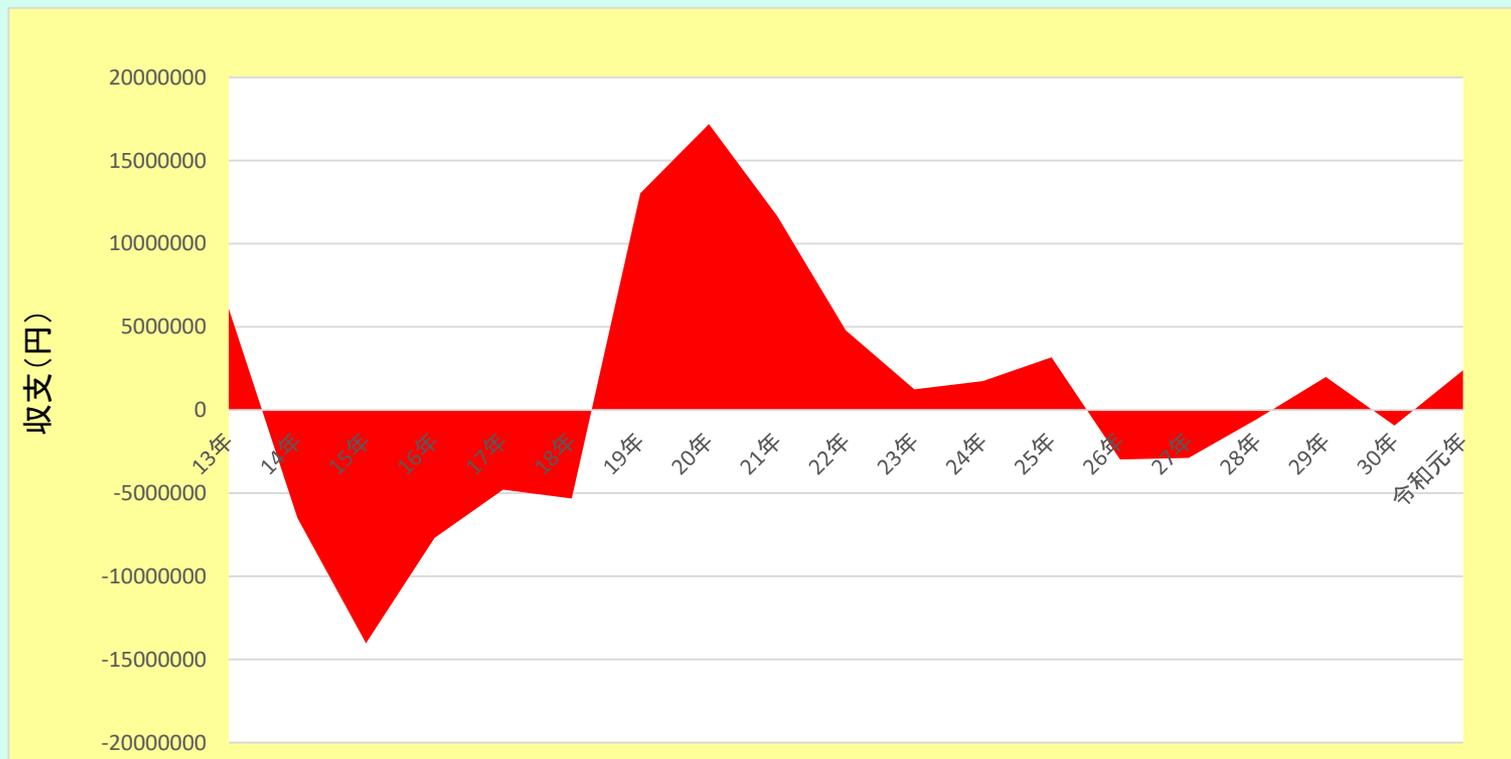
長良川河口堰におけるアユ遡上状況（長良川河口堰発表数値）



経験値からすると目指すは最低**70万尾**（＝推定総遡上数で**500万尾**）。
 平成19年以降は、ほぼ達成中。
 長良川全体の放流量は**400万尾** ————— **900万尾**

天然遡上アユと漁協収支の関係②

漁協収支の状況（郡上漁協の収支状況）



漁協の収支は天然アユの遡上量と連動していることがわかる

→天然遡上アユを増やすことが漁協経営の安定化に不可欠！

＜余談＞平成26・27年の欠損は職員増にかかる先行投資のため
災害の平成30年の減収が最小限に抑えられたのは

⇒出荷事業のおかげ

天然遡上アユを増やす取組み①

県産鮎放流のねらい【天然鮎の増加】

魚苗センター

採卵

仔鮎

放流

長良川

遡上鮎
(親魚)

伊勢湾

遡上鮎 増

親魚 増

遡上鮎 増

放流鮎
(親魚増)

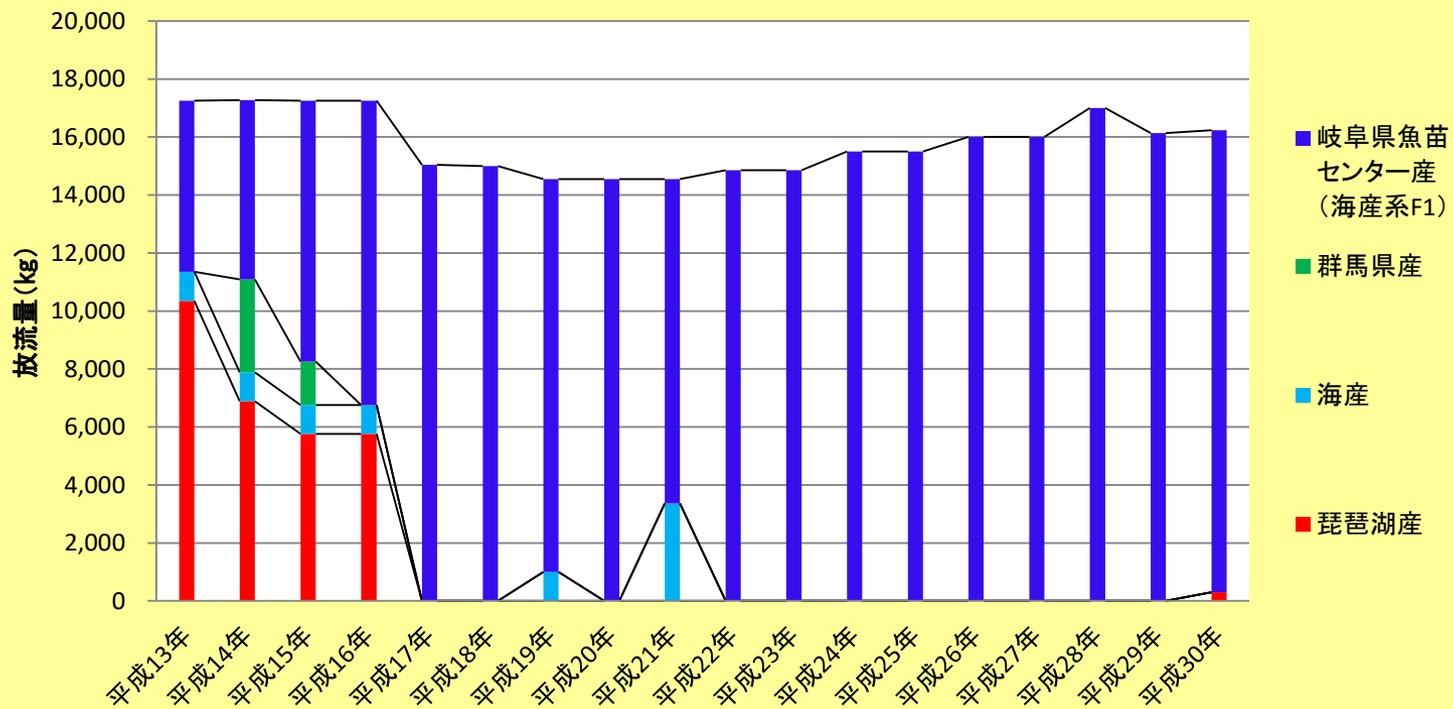
産卵

仔鮎

天然遡上アユを増やす取組み②

鮎種苗放流の状況（郡上漁協）

アユ種苗放流状況



天然遡上アユを増やす取組み③

鮎の資源 = 天然遡上(年変動) + 稚魚放流(ほぼ一定)

ふ化放流事業

長良川漁協を中心に発眼卵の放流を実施



平成18年から開始 年間目標数：1億粒

川と森と魚を守る取組み①

「鮎の味」 ≡ 「川の味」



「川の味」 ≡ 「水質」



「水質」 ≡ 「山林保全」



そこで

長良川源流の森育成事業

平成22年から

長良川源流域へ広葉樹を植樹

述べ 植樹面積：約 10 ha

参加人数：約 1,400名

植樹本数：約 19,000本



川と森と魚を守る取組み① - 2



農林水産大臣賞
令和3年10月10日 受賞



川と森と魚を守る取組み②

郡上土木事務所

ベストリバー検討会 ⇒ 河床低下対策（分散型落差工）



手づくり郷土賞（国交大臣賞）
平成28年2月22日 受賞

川と森と魚を守る取組み③

カワウ駆除

エアライフル導入による
効率的な駆除（個体数調整）



生息・飛来状況等の調査把握



①営巣地における駆除



②飛来地における駆除



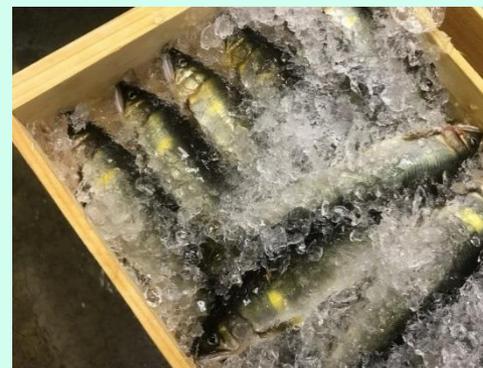
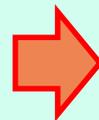
③駆除不可地における
追い払い



効果の検証 ← **重要**

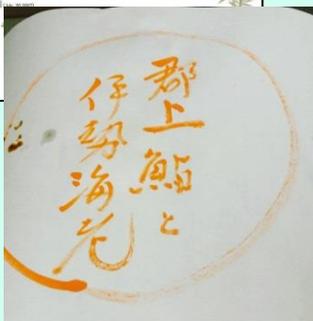


川の恵みの活用① アユの集出荷事業



明治期以前：献上鮎として皇室に献上
大正～昭和：共同出荷システムの確立

川の恵みの活用②



郡上鮎のブランド化 地域団体商標登録

平成18年4月

商標法改正

平成18年6月

登録出願

平成19年7月20日

登録



郡上鮎認定店制度導入



直送システムの確立により
直販量の増加

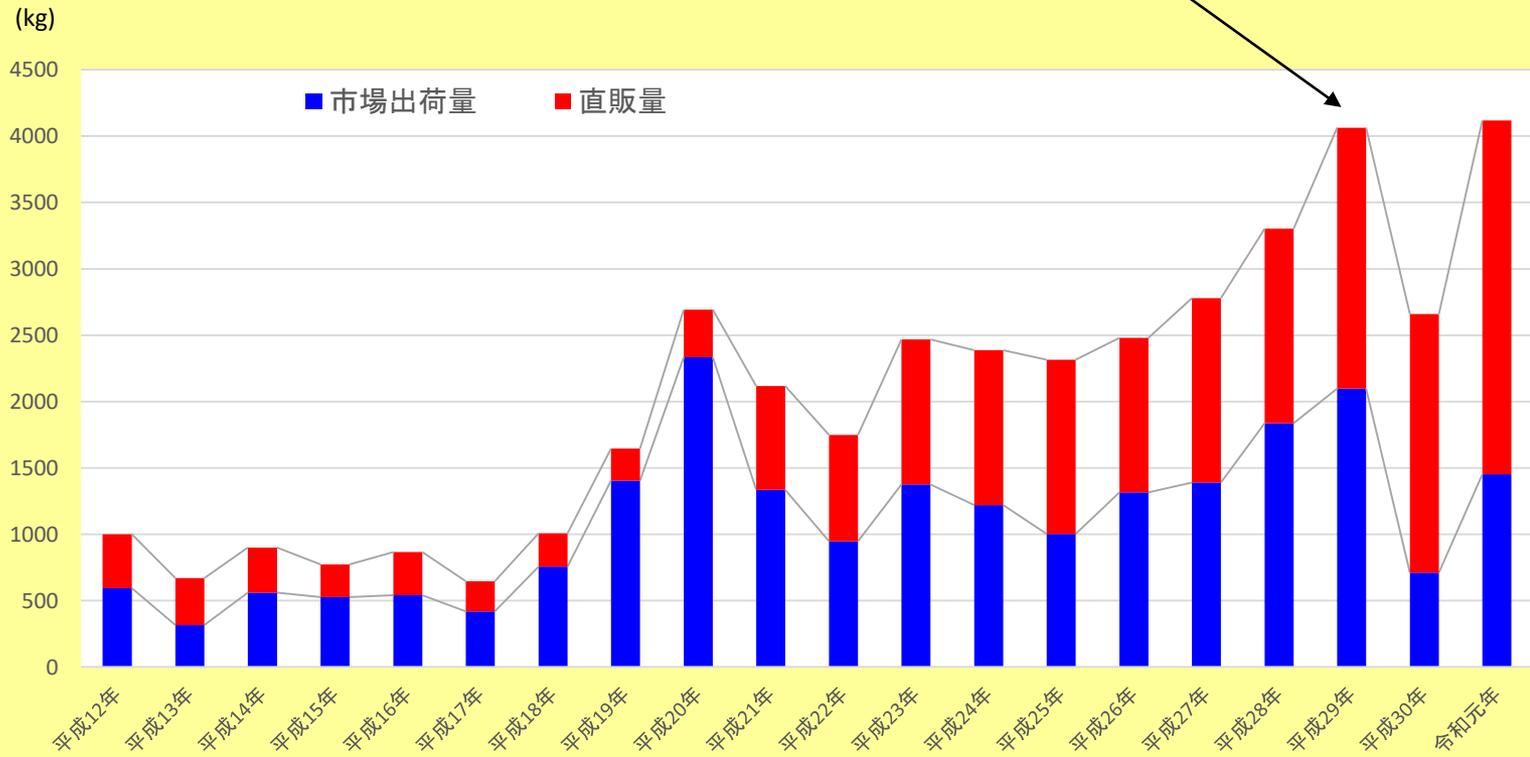
郡上鮎のさらなる ブランド化へ

川の恵みの活用③

郡上漁協アユ出荷所における取り扱い量の変遷

漁獲高の2~3% (例：平成29年アユ漁獲高151 t)

アユ共同出荷取り扱い量の推移(過去20年)



川の恵みの活用④



郡上鮎が
マリン・エコラベル 認証
 河川産淡水魚で唯一の認証

平成30年2月
 生産段階認証
 流通加工段階認証



東京オリンピック
 パラリンピックへ向けて



令和4年2月
 マリン・エコラベル Ver.2
国際認証を取得!

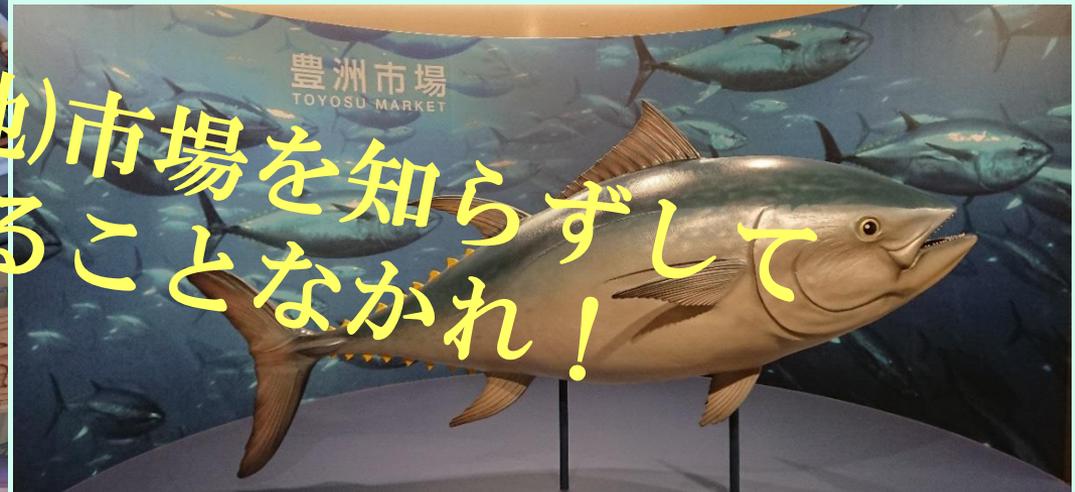
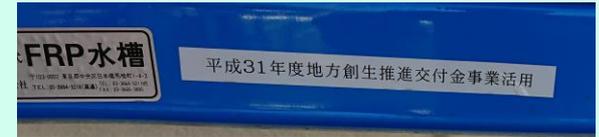
川の恵みの活用⑤

出荷施設 (活かし施設)整備

→品質向上と出荷時間調整



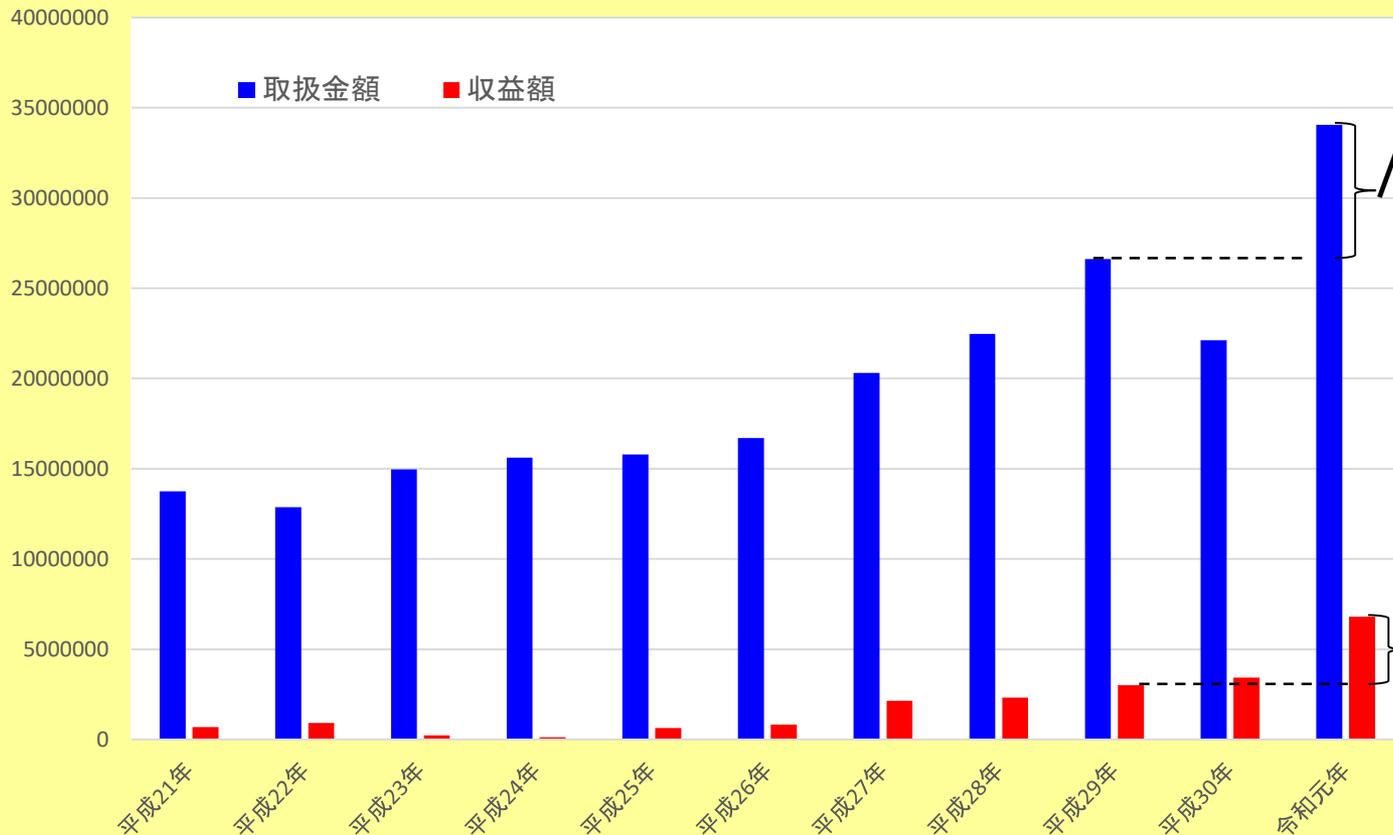
令和元年6月3日
東京豊洲市場初出荷
より出荷開始



川の恵みの活用⑥

H29年,R元年共に集荷量は約4t
だが、R元年の増収は豊洲効果

出荷所の取扱額及び収益額の推移



川の恵みの活用⑦

豊洲市場出荷効果

販売価格＝約1.5倍以上（岐阜市場比較）

輸送経費＝変わらず（岐阜市場比較）

→出荷意欲の向上 →釣り人増大にも寄与

集出荷設備の更なる充実

（作業効率向上による品質保持と取扱量増への対応のために）

冷凍施設増設



荷受け作業等のIT化



自動選別機導入



令和3年度は**過去最高の取扱高(6.3トン)**を記録

伝統を後世へ繋ぐ

今そこにある**危機**

8,070人

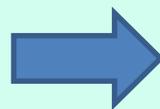
(昭和63年)

さらに遊漁者も**減少**

組合員数の**減少**

6,190人

(平成29年)



次世代を担う**人材の育成**



釣り教室等の実施等 (あゆパークの活用)

「清流長良川の鮎」世界農業遺産総括

平成27年12月、FAOより認定される。

長良川は人が利用しつつ、適正に関与することで
環境が守られている「里川」であり、

人の**生活、水環境、漁業資源**がつながりを持った
世界に誇りえるこの**循環システム**が評価された
アユ資源に着目すると、

「天然遡上アユに優しく、効果的な種苗放流や、
資源管理に取り組んでいる」

ことが評価され、今後に期待された

今後も『**持続可能な漁業生産システムの推進**』
に取り組むたい

『**温故知新**』の心をもって



清流長良川の鮎

ご清聴ありがとうございました

白滝治郎

